

# 目次

## 1. 生活の中の知的財産

1

1.1 事例1 飲料紙パックの注ぎ口 キャップ	1	1.3 事例3 グラクソ・スミスクラインの エイズ薬	2
1.2 事例2 ボルボのシートベルト	2	1.4 事例4 著作権と特許権	2

## 2. 社会と知的財産

4

2.1 知的財産とは何か	4	2.2 知的財産の役割	13
2.1.1 知的財産制度の全体像	4	2.2.1 情報化社会における知的財産	13
2.1.2 知的財産制度の成立過程	8	2.2.2 公正競争と独占	15

## 3. イノベーションと知的財産

20

3.1 イノベーションの意義	20	3.3 技術分野と知的財産	41
3.1.1 技術的イノベーションと知的財産	20	3.3.1 物理系技術と知的財産	41
3.1.2 非技術的イノベーションと知的財産	22	3.3.2 機械・建築・土木系技術と知的財産	43
3.2 研究開発と知的財産	27	3.3.3 農学系技術と知的財産	47
3.2.1 研究開発と特許制度	27	3.3.4 化学・医薬系技術と知的財産	51
3.2.2 知的財産情報の収集・分析	31	3.3.5 ライフサイエンスと知的財産	56
3.2.3 研究開発と営業秘密保護	34	3.3.6 電気・電子・情報系技術と知的財産	60
3.2.4 学会発表と特許出願	36		

## 4. 文化と知的財産

68

4.1 文化と知的財産の関係	68	4.2.2 著作権によるコンテンツ保護	72
4.2 コンテンツと知的財産	70	4.3 ブランドと知的財産	77
4.2.1 コンテンツとは何か	70	4.3.1 商標権によるブランド保護	77

4.3.2 商品等表示としてのブランド	83	4.4.2 商品形態としてのデザイン	93
4.3.3 ブランドと商品化	84	4.4.3 著作権によるデザイン保護	94
<b>4.4 デザインと知的財産</b>	<b>89</b>		
4.4.1 意匠権によるデザイン保護	89		

## 5. 知的財産の活用 98

<b>5.1 知的財産の利用</b>	<b>98</b>	<b>5.2 知的財産権の侵害</b>	<b>119</b>
5.1.1 経営資源としての知的財産	98	5.2.1 特許権の効力と侵害訴訟	119
5.1.2 知的財産の自己活用	103	5.2.2 審判制度と特許異議申立制度	125
5.1.3 技術のライセンス	107	5.2.3 知的財産権に関する裁判制度	126
5.1.4 コンテンツのライセンス	113		

## 6. グローバル時代の知的財産 130

<b>6.1 国際取引と知的財産</b>	<b>130</b>	<b>6.2 知的財産の新視点</b>	<b>143</b>
6.1.1 国際的な知的財産保護	130	6.2.1 アジア新興国の台頭	143
6.1.2 グローバルビジネスと紛争解決	135	6.2.2 新規保護/未保護知財の諸様相	147
<b>付録 権利取得のフロー図</b>	<b>157</b>		
<b>索引</b>	<b>161</b>		

## コラム

<b>1 クアルコム社に対する各国独禁当局による調査の展開</b>	<b>17</b>	<b>6 白熱する自動車ライセンス</b>	<b>97</b>
<b>2 発明者と企業（職務発明）</b>	<b>18</b>	<b>7 知的財産の経営的価値</b>	<b>127</b>
<b>3 電話の発明と事業化</b>	<b>66</b>	<b>8 クールジャパンとコンテンツライセンス</b>	<b>128</b>
<b>4 終わらない戦後 著作権の「戦時加算」</b>	<b>95</b>	<b>9 音楽著作権の管理事業とは</b>	<b>129</b>
<b>5 模倣品の氾濫と取り締まり</b>	<b>96</b>	<b>10 NPE（パテント・トロール）訴訟問題</b>	<b>152</b>
		<b>11 フォーラム・ショッピング</b>	<b>154</b>